

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

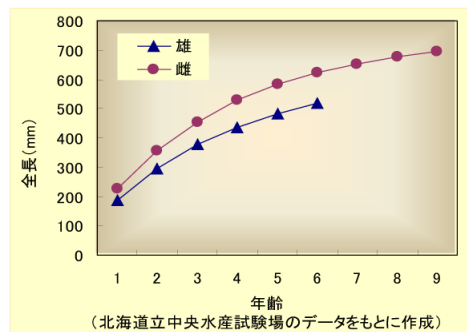
系群名 北海道系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 6～8月、水深20～50mの浅海域
索餌期・索餌場: 不明
食性: 仔稚魚期に動物プランクトン、着底期にアミ類、未成魚・成魚期に魚類・エビ類・イカ類等が主要な餌
捕食者: 詳細は不明

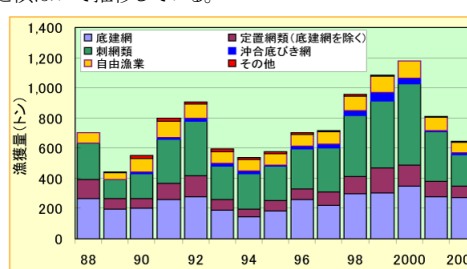
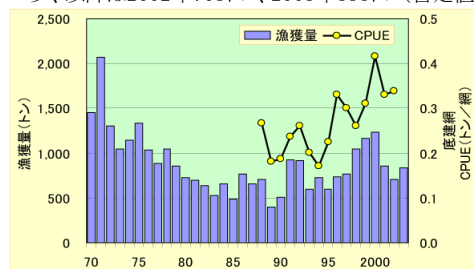


漁業の特徴

北海道沿岸のヒラメは主に日本海と津軽海峡において、底建網等の定置網、刺し網、釣り、沖合い底びき網などで漁獲される。漁獲量は6～7月に多く、10～12月にも増加する。6～7月は水深20～50mの海域で、10～12月は水深50～120mの海域で漁獲される。

漁獲の動向

北海道沿岸のヒラメ漁獲量の推移は、1960年代に2,000トンを超えたが、1970～1980年代に減少し500トン前後となった。その後、1996年から増加し1998～2000年には1,000トンを超えた。ここをピークとし、2001年に859トンに減少、以降は2002年703トン、2003年835トン(暫定値)と横ばいで推移している。



資源評価法

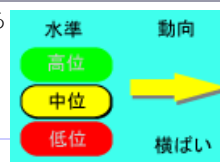
ヒラメ北海道系群の資源評価には、漁獲量と底建網漁業のCPUE(資源量指数値)を使用した。また、全長組成の推移も参考にした。

資源状態

最近20年間の漁獲量から、2003年の資源水準は中位と判断される。底建網漁業におけるヒラメのCPUEは2000～2001年に減少した後、2001年、2002年は横ばいである。また、2001年以降の漁獲量も変動しつつも横ばいである。全長組成と漁獲量を用いて推定した漁期年度(8月1日～翌7月31日)ごとの全長階級別組成では、2002年度は漁獲量が同レベルの年度と比べて大きな変化は見られず、加入量が顕著に変化するとは考えられない。以上から、資源動向は横ばいと判断される。

管理方策

2003年の資源水準は中位であると判断され、2001年以降の底建網漁業CPUEの推移から資源動向は横ばいと判断された。資源状態が横ばいであることからABClimitは、2001～2003年の平均漁獲量×1.0とした。ABCtargetはABClimit×0.8とした。また、現在実施中の全長35cm未満の漁獲制限遵守を徹底し成長乱獲を抑制する。



	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	800トン	1.0Cave3-yr	-	-
ABCtarget	640トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 最近20年間の漁獲量から資源水準は中位と判断される
- 底建網のCPUEの推移から資源動向は横ばいと判断される

管理方策のまとめ

- 2005年のABCは、2001～2003年の資源動向が横ばいであることに配慮して設定
- 未成魚保護のための全長35cm未満の個体の漁獲制限遵守を徹底し、成長乱獲を抑制

資源評価は毎年更新されます。